にやり・ほっと（ハッピースマイルメモ）の活用

（副題）利用者や職員の信頼関係を紡ぐ取り組み

◆キーワード
1 にやり・ほっと
2 嬉しい感情
3 感謝

（大分県・別府市）

ふりがな　ぐるーぷほーむおぐらげんじょう
種別・施設名　グループホーム小倉ゲンジョウ

ふりがな
職種・発表者：管理者　早川　研史　　共同研究者：

（今回の発表の施設またはサービスの概況記入欄） （介護予防）認知症型共同生活介護事業所	（事業所に関する情報記入欄）1ユニット9名の事業所、設立は平成22年

（取り組んだ課題・はじめに）
利用者のケアの職員間での情報共有の際に、ヒヤリ・ハットのような危険を回避する情報の共有が主となっていた。それはそれで利用者の安全を守る上で大事なことではあるが、日々の利用者との関わりの中で、利用者や職員双方にとってうれしく感じたりする場面があるのではないかと発表者自身が感じていた。発表者がとある研修でヒヤリハットの逆でにやり・ほっとという取り組みがあることを知る。その内容と言うのは、利用者との日々の関わりの中で、良かったことや安心したことなどを職員間で共有するというものだった。その取り組みに感銘を受けた発表者が自分のグループホームでも、このにやり・ほっとを活用した取り組みができないかと考えたことが取り組んだ背景である。

（倫理的配慮）
この発表に登場する利用者や職員については、特定されないよう配慮を行う。また、発表で登場する利用者や職員については事前に発表の内容について説明を行い同意を得るようにする。

（具体的な取り組み）
職員へにやりほっとという取り組みがあることを職場会議にて提案する。どのような仕組みでこの取り組みを行うことができるか、他の職員の知恵を借り、以下の方法で取り組むようした。また、職員の自発的なアイデアで、にやり・ほっとよりも良いことを共有するものなので、ハッピースマイルメモと名付けたほうが良いのではとの意見があがり、全員一致でそのネーミングが採用される。
☆誰でもその中身を閲覧できるよう業務日誌の中にハッピースマイルメモの欄を設けた。
☆その日の出勤した職員が誰でも記入できるようにした。
☆業務の負担感を軽減するため、記入する内容は具体的には箇条書きでも良いことを職員間で決めた。
☆また、絶対に記入しないといけないということではなくあくまでも各職員が記入しようかなど自発的に記入したいと思ったら記入することとした。
☆利用者との関わりだけではなく、職員間でも良いことを記入するようにした。

（活動の成果と評価）
この取り組みで得た成果として、取組前よりも、利用者との関わりの中で、職員からの主観にはなるが良かったことが、情報として上がり、今まで知らなかったことなどを職員全体で共有することができた。その情報をもとにケアプランに反映することもできた。
また、良かったと職員が感じた背景には職員のケアの質が良かったからこそ、利用者が喜んだりした場面もあるため、その職員へ具体的にどのようなことをしたのか聞ける仕組みが自然とできたと思う。具体的に職員の話を聞くことで、職員の利用者に対する思いなども知れ、管理者と職員のコミュニケーションのきっかけともなっている。また、職員間で良かったことを文書にて伝えあうことで、自分がしたことが他の職員から喜ばれているという実感が持て、互いに感謝する風土がより確立されたと思う。

（今後の課題・考察・まとめ）
記入することに対して、何のためにやっているのかという目的がなくなってくると、記入する価値が見いだせないと思うので、職員間でその目的を定期的に確認しあい、解釈を合わせながら継続していく必要がある。また、利用者との関わりで良かったことが上がった場合は管理者が興味を持ち具体的にどのようにしたかなどを今後も職員へ聞いていき評価（誉める）していく意識が継続していく一つの効果であろうと考える。

（参考・文献など）
にやり・ほっと

第22回日本認知症グループホーム全国大会　協賛企業・団体広告
社会福祉法人　生愛会
ケアハウス桜蘭
〒874-0041 大分県別府市大字鉄輪１０６８番地　TEL：0977-66-7728　FAX：0977-66-6607
皆さんで大会を盛り上げていきましょう！！

笑顔のキセキ

一緒に歩みたい！これからも！

◆キーワード
1 笑顔
2 チームケア
3 信頼関係

佐賀県・鳥栖市

グループホーム　お元気ハウス（げんき）

介護支援専門員・安倉泉（やすくらいずみ）　　共同研究者：グループホーム職員一同

グループホームお元気ハウス。 目指すは『街の介護屋さん』	2ユニット定員18名の認知症対応型共同生活介護。 平成14年5月開設。

（取り組んだ課題・はじめに）

長年住み慣れた家を離れてグループホームでの生活をはじめられる利用者の皆様は、たくさんの不安やとまどいを感じられながらも、私達介護者との生活の中で1日1日を力強く生きておられます。はじめは手探りの状態から少しずつ信頼関係をはぐくみ、多くの方々の力を借りることで、毎日学びながらケアをさせて頂いております。ここが「安心して暮らせる家」となれるよう取り組んだ私達とO氏との5年間をここに報告致します。

（倫理的配慮）

今回の発表にあたり、ご本人、ご家族の承諾を得た上で、ケア状況の報告や写真の掲載を致しております。

（具体的な取り組み）

平成28年5月12日明朝3時に近隣の方から警察に通報があり保護されたO氏は混乱して手が付けられない状態であり、急遽当ホームに入所の運びとなりました。意思の疎通が十分にとれない状況の中、ご本人の言動や表情の変化に注意しながら、医療と連携して体調管理を行い、関わり方の工夫や生活環境の改善と共に、想いに寄り添ったケアが出来ているのかを振り返る機会を作りました。少しずつ穏やかな表情をみせられるようになり、労って下さるような優しい言葉が聞かれ、ケアに応じられることも増えていましたが、今度はさらなる身体機能の低下が懸念されはじめました。丁度その頃に職員が参加した研修で学んだことを活かし、「視線」「待つ」「残存機能」を合言葉に『動き出しは当事者から』を意識した支援に取り組み、専門職の方の力も借りながら、歩行がまた可能にまでになられました。にこやかに歩かれる姿にこちらまで嬉しくなりましたが、定期的にみられる発熱と、現在は93歳というご高齢に年を重ねられたこともあり、再び支援を見直す状況になられています。

（活動の成果と評価）

認知症を患いながらもどうにか一人暮らしを続けていたO氏が、急遽入所を余儀なくされた時のことを思い起こすと、環境の変化による混乱は計り知れないものであったのではないかと思います。認知症が徐々に進行し、セルフケア不足による脱水等の体調不良や不活発による身体機能の低下は、より不安を大きくするものであったのかもしれません。まずは、こまやかな観察にてご本人の状態を把握し、専門職と協働した体調管理を行うことで健康状態を改善する事が出来、心情に合わせながら関わりを増やすことで少しずつ顔見知りの関係を築く事が出来たのではないかと思います。また、今まで暮らしていた生活環境に近づけられるような配慮も行ったことで、ここでの生活を穏やかに過ごして頂けるまでになったのではないかと感じています。さらに、自立支援会議での事例検討では、ご本人の気持ちに思いを巡らせること、心と心を重ねたケアの大切さを考える良い機会となりました。そして、研修を活かした取り組みでは、動き出しやその想いに気付けるかどうかで、ケアの仕方にも変化が生まれることを学びました。良い反応や力をうまく引き出せた瞬間には思わずお互いに笑顔がこぼれ、その素敵な笑顔が私達の一番の成果であることを感じています。

（今後の課題・考察・まとめ）

今年の春頃に体調を崩され、リハビリの先生からも歩行がもう厳しい状況にあるとの助言を頂きました。ケアの見直しを行い、職員間でもケア状況を見せ合いながら支援方法の検討を重ね、ご家族の協力のもとご本人の負担が軽減できる車椅子も購入して頂いています。これからまた様々な変化が訪れるかもしれませんが、今日までの軌跡で培った学びを活かしながら、チームで協力してより良いケアを模索し、私達の癒しでもある笑顔をご家族にもお届けしていきたいと思います。

（参考・文献など）

・日本認知症ＧＨ協会佐賀支部 研修会
【動き出しは当事者から】大堀具視（2018年）
・日本認知症ＧＨ協会佐賀支部 実践報告大会
【ここは私の家じゃけん】自施設（2016年）
【「動きたい」その想いと可能性】自施設（2018年）
・大堀具視【「動き出しは本人から」の介護実践】
中央法規（2019年）

第22回日本認知症グループホーム全国大会　協賛企業・団体広告

医療法人ゲズンハイト
お元気でクリニック　　理事長　安倉俊秀

『歩く』を日課に

フロアを歩いて町内一周

◆キーワード
1 歩行運動
2 コロナ禍
3 町内一周

（長野県・上伊那郡）　グループホーム　グレイスフル辰野（ぐるーぷほーむ　ぐれいすふるたつの）

管理者；塚谷　修（つかや　おさむ）　共同研究者：

（今回の発表の施設またはサービスの概況記入欄）●	（事業所に関する情報記入欄）1ユニット9名の事業所、設立は2000年10月17日
緑あふれる環境のグループホーム	

（取り組んだ課題・はじめに）

ここ数年当事業所では利用者様の体調管理について、食事面や運動面からも多角的に対策を実施しているが、感染症対策のため食事の買い出しに出かけられなかったり、外出レクもドライブのみで、歩く機会が減っている。感染症対策以前より毎日有酸素運動を実施しているが座った状態で行っており、立って歩く運動は提供していなかった。また数名の利用者様から「体重が気になる。」「最近身体を動かしにくくなった。」という声があり、健康が気になるという言葉が聞かれた。そこで毎日短時間でも歩行運動をしていただきたいと考えこのテーマを選定した。

（倫理的配慮）

事業所の現状として、利用者様の身体・認知症レベルの変化や職員の思い込みにより、利用者様の活動機会が制限される場面が見られた。また、施設周辺の散歩を実施していたが、歩行が不安定な方に対しては車椅子に乗って移動をする事で散歩としており、実際に足を動かして歩いていただく機会は居室からフロアのご本人席、風呂場、キッチンまでと限られている方が多い事が分かった。また、ご自分で歩行運動をされる利用者様もいらっしゃるが、明確な目標が無く歩かれている事が分かった。さらに、利用者様より「体重が増えてしまった」と健康を心配する声があった為、毎月１回体重測定を実施して体重を把握した。

その上で、事前に利用者様・ご家族には取り組みについての内容を、請求書とともに配布している事業所新聞にてお知らせし、実施内容も都度、新聞に掲載した。

（具体的な取り組み）

日中の実際の運動量を増やす、目標を持って歩いていただく事でより楽しく歩行運動を続けていけるようにする、を目標に以下の取り組みを行った。
◎利用者様に運動を提供しやすいタイミング・内容をアンケートにて検討を行う。
◎室内にて歩行運動が出来るようにフロア廊下の距離を測り目印をつける。距離を測定する表を作成する。
◎午睡後、職員 2 名でフロアへ誘導する際に歩行運動をしていただき、ご自分で距離を記入していただく。
◎町内の地図を作成し、ご自分でコマを動かしていただく事でわかりやすい目標を持てるようにする。

（活動の成果と評価）

全員に毎日１０メートルの歩行運動を提供する機会ができた。以前から有酸素運動を１４時過ぎから提供しているが、歩行運動開始前よりも利用者様との会話の機会が増え、足や腕の動きが大きくなったり回数を数える声がよく聞かれるようになった。また、目標にはなかったが午睡後に動くためか今まで寝付かれるまでの時間がまちまちだったが方がほぼ同じ時間帯に寝入れるようになった。

（今後の課題・考察・まとめ）

今回、活動期間中の職員の入れ替えが多く、安定して継続できる体制が取れなかった事、物品の発注が遅くなってしまった事など準備にも時間がかかってしまった為、実施時期が遅くなったことで十分なデータを残すことが出来なかった。運動の提供については継続できるよう無理のない範囲で提供ができるようにしていきたい。

（参考・文献など）

第22回日本認知症グループホーム全国大会　協賛企業・団体広告

株式会社 臨床宮崎　〒880-0911　宮崎市田吉6269番地2
TEL:(0985)52-6688　FAX:(0985)52-8093

『血液・感染症・遺伝子・病理検査等』を通じて地域社会・地域医療に貢献します

日中の覚醒を促し利用者同士の交流を増やす

◆キーワード
1 交流
2 日中の活動
3 MMSE

良い関係性を目指して

（長野県・岡谷市）　種別・施設名（ふりがな）　グループホーム　グレイスフル岡谷（ぐれいすふるおかや）

職種・発表者（ふりがな）：介護職・中島里栄（なかじま りえ）　共同研究者：

（今回の発表の施設またはサービスの概況記入欄 2002 年に設立、定員 9 名。2 階建て構造で 1 階はデイサービス、2 階がグループホームになっている。地域行事では地区の子供達と利用者様との交流がある。施設近くには公園や保育園があり、散歩に行った際に子供達の元気な姿を見るのを楽しまれている。）	（事業所に関する情報記入欄）1 ユニット 9 名の事業所、設立は 2002 年

（取り組んだ課題・はじめに）

料理作りや掃除などの家事やレクリエーションには積極的に参加して下さる方ではあるが、それらの活動が終われば居室に戻られてベッドで休まれてしまい、日中の他利用者様との交流が少ない状態である。自立度が高く、コミュニケーションも十分に取れる方である為、居室で過ごしているだけでなく、少しでも日中の覚醒を促し、他利用者様との交流を増やし良い関係性を築き、楽しく生活していただくことを目的としてご本人様の今までの生活スタイルや休息の時間を考慮しながら、時間を決めてその時間は、覚醒を促して他利用者様との交流をしていただくように取り組みを行った。

（倫理的配慮）

対象利用者様、ご家族様について健康面、安全面、個人情報の同意を得たうえで配慮をしている。

（具体的な取り組み）

82 歳　女性。要介護度：2　日常生活自立度：A1、認知症の日常生活自立度：Ⅱｂ、認知症の種類：アルツハイマー型認知症の方を対象とした。好きな事であれば積極的に行っていただけると考え、プロフィール表の確認やご本人様への聞き取りを行い趣味や、やってみたいことの確認を行う。

10 月 1 日～10 月 31 日まで、10 時～11 時、16 時～17 時の間は、職員から声をかけ、他利用者様が行っているアクティビティ（花札やトランプなどのカードゲーム）に参加を促し、フロア内で過ごしていただく。

9 月（取り組み前）と 10 月の 10 時～11 時、16 時～17 時の覚醒の有無を確認し比較を行う。

9 月末と 10 月末で MMSE を行い、点数の比較を行う。

（活動の成果と評価）

プロフィール表には、趣味などの情報がない為、本人様へ、やってみたいことなどあるか聞き取りを行うも、「これと言って趣味とかっていうものがないんです。私はこうやって居させてもらうだけで満足ですのでいいです。」と返答され、具体的な内容が分からず、ご本人様がやりたいことの把握ができなかった。9 月の 10 時～11 時の覚醒は 26 回、16 時～17 時の覚醒は 22 回、10 月の 10 時～11 時の覚醒は 28 回、16 時～17 時の覚醒は 26 回となり、覚醒している時間は少しではあるが増えた。また、取り組み前は他利用者様と話をしたり、笑顔は見られなかったが、取り組み後はカードゲームをしている時に、笑顔や笑い声など聞かれることもあり、職員が声をかけなくても居室からフロアへ出てこられることも増えてこられた。しかし、カードゲームを一緒にされている利用者様が居ない時は、居室に戻ってしまうこともあった。MMSE では、9 月末：23 点、10 月末：26 点となり、時間・場所の見当識の項目が少しではあるが数値が上がった。

（今後の課題・考察・まとめ）

本人様からやりたいことなど訴えることは見られなかった為、花札やトランプ以外のアクティビティを提供し、その反応からご本人様の楽しみとなる内容を知り、ご本人様が積極的に行っていただけるアクティビティを考えていく必要があると感じた。また、今回関わりを持った利用者様以外の方も交え、交流の幅を広げていくことも必要だと感じた。

（参考・文献など）

第22回日本認知症グループホーム全国大会　協賛企業・団体広告

NPO法人 黎明（れいめい）
グループホーム 夢路（ゆめじ）

〒865-0126
熊本県玉名郡和水町前原90番地1
TEL：0968-71-8558　FAX：0968-71-8606

より良い明日を迎える為に私たちにできること

～笑顔のある生活へ～

◆キーワード
1 ：取り戻した日常
2 ：私らしく
3 ：役割のある生活

（福岡県・久留米市）

ふりがな
種別・施設名　グループホーム　さくら苑

ふりがな
職種・発表者：中野百合子　　共同研究者：今村巳代子・野口千鶴・本村京子

当法人は、2003 年 12 月事業を開始した。2 ユニット・18 名の認知症対応型共同生活介護事業所です。また同法人は 2016 年 11 月 1 日弐番館を設立しています。	当該事業所は、福岡県久留米市の南側に位置し住宅街の中にあります。

（取り組んだ課題・はじめに）
病院から直接入居されたＡさん。
身体状況は介助が必要であり、声掛けにもいつも両腕を組み「私は何もわかりません」とばかり返答されていた。介助中には「足が痛いのでそーっとしておいて」と自分で行動される意欲も無く、食事も器を一度は持たれるものの、すぐに下ろされ食べようとされない状態。そんなＡさんの訴えに耳を傾け、支援方法を考え、少しずつではあるが、状態が良い方向へ改善してきた為、ここに経過と実践事例を報告する。
（倫理的配慮）
事前にご家族へ説明させていただき、同意を得る。

（具体的な取り組み）
〈対象者〉
Ａさん（女性 91 歳）　要介護 4
障害高齢者の日常生活自立度：Ｃ2
認知症高齢者の日常生活自立度：Ⅳ
既往歴：高血圧　骨粗鬆症　右人工関節置換術
左人工関節置換術　認知症
・ＡＤＬは全介助、立位困難。生活意欲が無く、食事もほぼ介助にて全量の半分ほど摂取。
（取り組み）
病院からの入居後すぐに「足が痛い」との訴えが頻繁に聞かれていた為、スタッフが気になり、ご家族へ受診を勧めると、右人工股関節のインプラントが緩んでいることが判明たため再度入院しインプラント抜去術を受ける。
退院後、声をかけるとしっかり返答がありスタッフ間で相談し、出来るだけ会話の機会や会話による刺激を増やすことで、変化が出るのではないかとアセスメントを行った。①食事の時は、話の上手な方の近くに席を移って頂き、会話の機会を増やすようにした②スタッフが朝、昼、夕にＡさんの目を見て挨拶する事を目標とし取り組んだ。③Ａさんの近くで記録や洗濯物畳みなどをして会話ができる時間を増やした。
（活動の成果と評価）
退院後、痛みの症状が改善し、車椅子の座位が保てる様になられた。身体状況が改善したことも影響したのか会話の機会が増え、食欲も増加し、毎食完食されるようになった。水分も「全部飲んでいい？」と言われる様にまでなり、意欲が見られ始めた。また、洗濯物が近くにあると「ここに持ってきて」と自分から声を掛けて手伝って頂く事も増え笑い声も出てこられた。日ごとに「ありがとう」「どこも悪くないよ」と笑顔で言葉のキャッチボールが増えた。私達はグループホーム職員として当たり前であるが、ご利用者の訴えに耳を傾け、生活しやすい環境を整えていく。それを当たり前に毎日積み重ねることにより“より良い明日につながっている”ことが今回事例を通じて感じられた。
（今後の課題・考察・まとめ）
現在では、スタッフが帰宅時に「帰りますね」など声を掛けると「また明日ね、待っているよ～」と自分の家族に声を掛ける様に、笑顔で接して言葉を掛けて下さる。それが私たちも嬉しく、また明日も頑張ろうという気持ちになっている。ご家族からも「今まで大家族の中で過ごして来たので、寂しい思いをせずに安心して暮らしてほしい」とのご意向がある。私達もその思いに答えられる様に、これからも笑顔多くＡさんと一緒に暮らしていきたい。

（参考・文献など）
パーソン・センタード・ケア

第22回日本認知症グループホーム全国大会　協賛企業・団体広告
「コロナに負けない　私たちの笑顔 (^▽^)
私たちの笑顔で　みんなも笑顔 (^▽^)」
医療法人　啓正会

馴染みの関係って素敵

顔なじみの関係で支援の幅も広がり自分自身も楽しいものに

◆キーワード
1 帰宅願望
2 入浴を嫌がる
3 多職種・多事業所との連携

（山形県・山形市）

認知症対応型通所介護（共用型）グループホームはなみずき　西の家
（にんちしょうたいおうがたつうしょかいご　ぐるーぷほーむはなみずき　にしのいえ）

介護職　鈴木　大輔（ふりがな：すずき　だいすけ）　共同研究者：齋藤真里・早坂直人

認知症対応型通所介護 株式会社ケアセンターはなみずき	お互いが支えあう関係で、お互いが毎日楽しい生活を送ることができるように支援しています。

（取り組んだ課題・はじめに）

Ｎ様女性。86 歳（要介護 2　障害ｃ1　認知　自立）は、旦那様と二人暮らし。子供さんは 2 人いるが 2 人とも遠方。R3/3 月に 1 ヵ月間で、手首、大腿骨を骨折。短期記憶なし。旦那様は、自分には持病もあり自宅介護は困難とのことで、入院先より有料老人ホームに入所。グループホーム待機者だった事もあり、認知症対応型通所介護を利用していただきました。

入居当初より、帰宅願望が強く、「帰ります。すぐそこなんだから、窓を割って帰ってもいい」と騒がれる。帰れないことや、病人なのに有料老人ホームとＧＨを行ったり来たりすることへのストレス等で、誰の話にも耳を傾けなくなり、孤立状態になってしまいました。

Ｎさんの状態を全体会議で検討したところ、Ｎさんのアセスメントや思いをもう一度みんなで探ってみてはどうだろう？そこからＮさんと顔なじみになり、本人の考え、気持ちを聞いてみてはどうかなぁと意見をもらう。Ｎさんの情報が少ないことや初めての認知症対応型通所介護という事で手探りでの支援の開始になりました。（GH デイサービス➡認知症対応型通所介護）

（倫理的配慮）

今回の発表にあたり、Ｎ様、Ｎ様家族、関係者の皆様に承認を得ました。

（具体的な取り組み）

① 毎日、担当を決め顔なじみの関係性の構築。

② 毎日有料老人ホームから認知症対応型通所介護に行く際の声掛けの統一。「リハビリに行きましょう」

③ 福祉用具さんにも協力していただき、何度も足を運んでいただき、Ｎさんに歩行器の使い方や使い勝手、痛みなどの確認をしていただき、リハビリが必要なことを自覚していただけるようにしました。

④ 入浴時間、入浴場所の工夫。ＧＨは午後から入浴しているが、午前中に入浴してみたり、有料で入浴に誘ってみたり様子を見ました。

⑤ 年が近く、会話が好きな人の近くに座っていただいたり、介助（手を少し掛けなくてはいけない人）の隣に座ってもらったり、（Ｎさんが姉御肌の所があったため）席順や周りの環境整備を行いました。

⑥ 居宅の介護支援専門員さんにも協力していただきＮさんの生活歴などを再度調べてみました。

（活動の成果と評価）

一人の職員と顔なじみの関係ができてからは、自ら挨拶をしたり、話をするようになった。嫌なことがあっても、職員に話をすることで、落ち着いて過ごすことができるようになった。そこから、顔なじみの関係が増え、ＧＨディサービスも、時間になると準備をしており、「リハビリしてくる。いってきまーす。」と有料老人ホームスタッフに対して、挨拶してくれるように。入浴を嫌がる事は、しばらくあったが馴染みのスタッフが、朝「お風呂入ってから行く？」と話すと、「んだな」と入浴に成功。それからは、デイサービスの方でも 3 回に一回の確率で入浴できるようになった。帰宅願望についても、毎日落ち着きなくしていたのが、「今日もここに泊めてけろは。旦那に電話しててけろは」と自ら話されることが増えてきた。時折、「いつまでここにいるといいんだ。」という事があるが、「リハビリもう一週間だって」と話すと「んだが、頑張るか。」と納得してくれることが多くなってきました。

（今後の課題・考察・まとめ）

リハビリという声掛けがどこまで通用するのか？今後納得した形で生活していくためにはどんな支援がいいのかを考えていく必要がある。また、ＧＨ自体も新しい風が吹いたようで、いい刺激になり、活気が出てきた気がします。コロナ化で外出・交流が制限される中で新たな交流の機会の提供につなげられたのではないかと思います。

第22回日本認知症グループホーム全国大会　協賛企業・団体広告

～地域のために　地域とともに～
社会福祉法人 ひじり会
福岡県久留米市田主丸町石垣 1291-6　TEL 0943-73-3050
http://hijirikai.com

○特別養護老人ホームひじり園
○ひじり園短期入所生活介護
○居宅介護支援 ひじり園福祉相談センター
○通所介護さくら
○訪問入浴介護さくら
○グループホームさくら館
○介護付有料老人ホームウエルネス
○認知症対応型デイサービスあじさい
○小規模多機能型居宅介護 ひまわりの郷小郡
○特別養護老人ホーム第２ひじり園
○第２ひじり園ショートステイサービス
○グループホームさくら２番館
○看護小規模多機能型居宅介護 ひまわりの郷味坂
○特別養護老人ホームひじり園うきは
○ひじり園うきはショートステイサービス
○ひじり会高齢者専用賃貸住宅にじの家
○ひじり会デイサービスにじの家
○ひじり会ケアプランサービスにじの家
○ひじり会２４時間ケアセンターにじの家
○水縄保育所

心を満たす暮らしの支え方

利用者様の思いに応えるために

◆キーワード
1 自立支援
2 職員と利用者様
3 利用者様と利用者様

（滋賀県・長浜市）　社会福祉法人まんてん　グループホームまんてん小谷（おだに）

職種・発表者：介護士　吉川（よしかわ）　恵里（えり）　　共同研究者：グループホームまんてん小谷職員

認知症対応型共同生活介護 平成21年12月　開設　1ユニット9名	運営理念：のんびり　ゆったり　ほがらかに。 いつまでも自分らしい生活のお手伝い。

（取り組んだ課題・はじめに）

グループホームまんてん小谷では「自立支援」として生活の様々な場面を出来るだけ利用者様の力でしていただけるよう支援している。支援をおこなううえで、職員と利用者様の間に信頼関係の構築が大切と考え、日々の生活が利用者様にとって活気があるものにするためにどのような支援が必要か、職員を「家族」や「友人」のように感じていただき、何でも相談していただける関係作りを目指して、これまでから実践している「自立支援」の職員の考え方や取り組み方について考える。

（倫理的配慮）

事例報告にあたり、ご家族の承諾を得る。

（具体的な取り組み）

①ティータイムの時間に選ぶ楽しさと会話のきっかけになればと、メニュー表を見やすいものに変更する。「飲み物を飲む時間」だけではなく「会話を楽しむ時間」を意識した支援をおこなう。

②昼食前の体操の時間は利用者様がテレビ体操をしておられたが、職員が輪の中心に入り見本になり「頑張りましょう」「出来るところまでお願いします」等、盛り上げ役になることで楽しい時間になるよう取り組む。

③食後の歌の時間は定番の童謡や季節の歌以外に利用者様のリクエストや唄える歌を取り入れ、利用者様の意欲を引き出す支援をおこなう。

（活動の成果と評価）

居室で過ごされることの多かったH様がリビングで過ごされる時間が増え、自身の話も積極的にしてくださるようになった。一方で「家に帰りたい」「こんなことしていられん」とこれまでから抱えておられた帰宅への思いを訴えられる場面が増え、徐々に居室で過ごされる時間が増えた。それを心配されたY様がH様の居室を訪れ「一緒に帰ろう」「ここの人に言うたら良い」と気遣われるようになり、元々H様と同じように帰宅への思いを持っておられたY様も同調して2人の帰宅願望が強まる結果となる。2人が一緒に過ごされると、職員への訴えも増え、2人への対応だけで半日が過ぎることもあり、2人が帰宅の相談をされないように職員が個別で対応して、施設で過ごすことに納得していただけるよう支援をしたが、帰宅願望の根本的な解決にならなかった。それから、職員同士の話し合いの中で引き離すのではなく、じっくり話してもらう方が良いのでは？という意見が出たのをきっかけに、帰宅の相談をされていても見守ることにすると、最初はお互いが帰宅願望を募らせておられたが、そのうちに「今日は一緒に泊めてもらわんか？」「ここで休んでからの方が良いな」と話が解決し、和やかに過ごしておられた。帰宅への思いは完全に無くなることは無いが、H様とY様の関わりが増えた結果、H様がティータイムや歌の時間に居室に戻られることが少なくなり、徐々に取り組みを始めた時のように一緒に参加してくださるようになった。

（今後の課題・考察・まとめ）

職員と利用者様の信頼関係を深めて「家族」のような関係を目指すことで「自立支援」の取り組みが利用者様にとって満足できる時間になると考えたが、利用者様と利用者様の関係作りも同じように大切であると感じた。親身になって帰宅への思いを受け止めていたつもりだったが「早く話を切り上げたい」「電話して聞いておきます」とその場しのぎの返答で済ませていた。認知症の進行を遅らせることを目的に「自立支援」をおこなっているが、日々の生活を楽しんでいただくために、会話やコミュニケーションは大事である。職員が利用者様の輪の中に入るための努力が必要である一方で、利用者様同士の関わりにも目を向けないと、利用者様自身に十分な達成感が得られず満足いく生活が送れないと思うので、今後のケアに活かしていきたい。

（参考・文献など）

第22回日本認知症グループホーム全国大会　協賛企業・団体広告

fujimak

株式会社フジマック

業務用厨房機器総合メーカー ＜厨房設備　開発・設計・製造・施工・保守＞

本社：東京都港区南麻布 1-7-23　tel 03-4235-2200　www.fujimak.co.jp/

「あなたの夢叶えます」

～個人をより理解することで見えてくるもの～

◆キーワード
1 帰宅願望
2 夢叶えシート
3 寄り添い

（佐賀県・白石町）

ふりがな
種別・施設名　グループホーム　いこいの森（もり）

ふりがな
職種・発表者：主任・亀井広子（かめいひろこ）　　共同研究者：ＧＨ職員一同

認知症対応型デイサービスを併設し、在宅支援も含めた地域における認知症ケアを提供	１ユニット９名の事業所、設立は平成１７年４月

（取り組んだ課題・はじめに）

前年度の外部評価の結果、職員の自己評価とご家族様からのアンケートにおいて、「戸外の行きたいところへ出かけている」という項目が他項目に比べ、満足のいく結果とはならなかった。この結果を改善出来るよう当ホームでは今年５月から「あなたの夢叶えます」という取り組みを開始する。これは、コロナ禍において多少の制限がある中でも、年に一度の誕生月にご本人様の希望を叶えようという取り組みである。この取り組みを開始した事により見えてきたものがあったのでここに数名の事例を報告する。

（倫理的配慮）

今回の発表にあたり、ご家族様に実践の趣旨の説明を行い、写真等の掲載の承諾を頂いている。

（具体的な取り組み）

今回の取り組みに当たり担当スタッフは事前に「夢叶えますシート」というアンケート用紙を記入する。ご本人様やご家族様に当日食べたいものや行きたい場所、したい事を事前に聴取する。この結果を基に、コロナ禍で制限が強いられている中、可能な限り外出支援も行った。

対象者：K氏　女性　８９歳　要介護４
　　同広域圏内だがＨ２４年８月他町より入居
既往歴：右大腿骨頸部骨折　腰椎、胸椎圧迫骨折
　　骨粗鬆症　高コレステロール

K氏は日頃より帰宅願望が強く、「O町に帰りたい」「私は１人ここに来とる、、、」「ねぇ、私ばO町に連れてって」と何度もスッタッフを引き留めては帰りたいことを切望されていた。スタッフもその都度K氏が安心されるような声かけを行うのだが、K氏がそれで本当に満足されているとは、表情からも見受けられなかった。K氏の誕生月が来る。誕生日はご本人のリクエストでちゃんぽんを提供する。最近認知症状が進まれておりどれを食べたらいいのか分からず、困った表情で食べられていたK氏であるが、その時だけは笑顔で食事をとられていた。別日には、他利用者様も一緒にK氏の希望されるO町へドライブに出かける。O町の景色を眺め、K氏がよく利用していた商店を訪れ、地元の方と少しの時間だが交流する事が出来た。地元への恋しさから帰宅願望を口にしていたK氏であるが外出後約２ヶ月間は帰宅願望がみられることは殆どなかった。帰宅願望がみられる時にその時のアルバムを渡すと写真やコメントをじーっと眺められ、いつの間にか帰宅願望はなくなっていた。また、スタッフも実際足を運んでみたからこそ知り得たその土地の具体的な情報を声かけに加えてみる事で、自然と会話や笑顔が増えた。「あんたよう知っとるねぇ、嬉しかぁ」と言われるK氏の表情は穏やかで、自分の事を知っている人がいるという安心感があるのではと感じた。この取り組みを行う事により不穏の回数は減少傾向であった。

（活動の成果と評価）

これまでも、季節の花を見に行ったり外食等、定期的に出かけ、誕生日には出来るだけご本人様が食べたいものを提供するようにしていた。しかし、今回のようにご本人様とご家族様のアンケート項目を分け、シートに書き記す事で、それぞれの思いや、会話の中だけでは分からない事も確認できた。また職員間での情報共有も可能となり統一したサービスを提供することが出来た。よってチームとして個々の利用者様により深く寄り添えるようになった。さらに、「夢叶うシート」をお一人ずつアルバムにまとめる事で、日々の生活ではもちろん、ご家族様にも見てもらい楽しんでいただく事が出来た。

（今後の課題・考察・まとめ）

K氏の生活されていた場所に実際に足を運ぶ事で、当施設白石町とO町の地形や景色もずいぶんと異なっている事を知り、K氏の孤独感の強さを再認識する形となった。今回のK氏の事例のように具体的な名称を用いた声かけによって、本人様に安心して過ごしていただけた。今後も、外出支援だけに限らず、お一人お一人の事をより深く知る事によって、普段のケアにも繋げる事が出来ると考える。

（参考・文献など）

参考・文献なし

第22回日本認知症グループホーム全国大会　協賛企業・団体広告

医療法人ゲズンハイト
お元気でクリニック　　理事長　安倉俊秀